

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.9.15 No.176 連絡先 FAX 042-555-1911



10月に滋賀と高知で行う 日米共同訓練にM V 22オスプレイが参加

小野寺五典防衛相は9月6日の記者会見で、10月に滋賀県と高知県で行う日米共同訓練に米海兵隊のMV22オスプレイが参加することを明らかにしました。

◆ 10月上旬～中旬に滋賀県高島市の陸自饗庭野（あいばの）演習場で実施される共同訓練。共同訓練に参加する主な部隊は、陸自第37普通科連隊（大阪府和泉市）と米第3海兵連隊（米ハワイ州）。オスプレイから隊員が降下する訓練も想定されているといえます。

◆ 10月下旬に高知県の陸自高知駐屯地や空自土佐清水分屯基地などで南海トラフ大地震を想定して行われる共同統合防災訓練。高知県での訓練では、同県沖に展開した海上自衛隊の艦船から駐屯地などにオスプレイが飛行する予定です。

小野寺五典防衛相は「沖縄の負担軽減のために、本土での訓練移転を検討していきたい」。とも述べ、滋賀、高知両県での日米共同演習を契機に、オスプレイ訓練をさらに全国へ拡散する意向を示しました。「沖縄の負担軽減」を口実としていますが、日本政府は一方で、伊江島や東村高江に新たなヘリ着陸帯を建設するなど、逆に沖縄でのオスプレイ訓練場を増強しています。

国内での日米共同訓練でオスプレイが使用されるのは初めて。危険なオスプレイの訓練反対！

頭上にはC-130 横田基地に飛来機いろいろ

横田基地のC-130Hは、連日激しく飛行しています。

一方、日米軍事一体化の横田基地には様々な機種の飛行機が。

13日朝、6時ちょうどにチャーター機のエバーグリーン（写真）が朝日を浴びて着陸。その頃、大型輸送機C-5B（写真）は、後部ドアから大きな荷物を積み込み、バスで乗りつけた乗客は、タラップで2階席に乗り込み、出発の準備をしていて、7時30分頃に離陸しました。午後には、航空自衛隊・三沢基地・第3航空団・北部支援飛行班のT-4が2機（写真）、着陸しました。その直後C-17Aが着陸しています。

9月12日、午前9時前後に航空自衛隊小牧基地のC-130H輸送機（写真）と、航空自衛隊・入間基地のC-1輸送機が相次いで横田基地に着陸。航空自衛隊のCH-47Jも来たようです。

9月9日、12時すぎに、大型輸送機C-17A着陸しました。横田基地にはいつも駐機しているように見えるC-17は、外来機の中で飛来回数トップです。

夕方は5時半ごろ、航空自衛隊・入間基地のU-4（写真）が来ました。横田基地に航空総隊司令部が移駐してから、よく来るようになった機種です。KC-10A空中給油機が離陸しました。

（文中で、米軍機は大型輸送機C-5B、C-17A、KC-10Aです。自衛隊機はT-4、小牧基地のC-130H輸送機、C-1輸送機、CH-47Jヘリ、U-4です。飛行機の写真はyokotajohoブログより）



横田基地所属の米軍人による交通事故 9月10日 武蔵村山市 (No. 176 の裏面)

横田基地所属の米軍人による交通事故について 横田防衛事務所から、周辺自治体へ情報提供がありました。横田基地周辺市町基地対策連絡会は、9月11日、横田防衛事務所を通じ、横田基地に対して、軍人に対する教育及び綱紀粛正の徹底、事故の再発防止について口頭要請を行ったとのこと。

- (1) 発生日時：平成25年9月10日（火）午前8時40分頃
- (2) 発生場所：東京都武蔵村山市岸1-56 新青梅街道
- (3) 米側当事者：横田基地第374航空機整備中隊所属の23歳男性（上等空兵）
- (4) 被害者側当事者：日本人女性、58歳
- (5) 概要：米側当事者は新青梅街道の交差点を赤信号で走行し、自転車に乗っていた日本人当事者と衝突した。
- (6) 被害状況：（人身）多発骨折（右肋骨骨折2本、右鎖骨、恥骨、尾てい骨骨折2カ所、鼻の骨骨折）、頭部皮下出血、内臓（肝臓）が裂けている可能性がある（肝損傷）、意識はあり話はできるが、事故の状況についてはわからない模様。（物損）自転車破損（詳細確認中）
- (7) その他：被害側当事者は青梅総合病院に入院した。米側当事者は公務外であったとのこと（法務部情報）。ACE保険加入あり（事故報告済、保険対応予定）。米側当事者は黄色信号だったと主張しているが、目撃者情報では赤信号だったとのこと。（警察情報）

沖縄で墜落したHH60は 何の訓練をしていたのか

沖縄県宜野座村の米軍キャンプ・ハンセンに墜落、乗員4人のうち1人が死亡したHH60救難ヘリ墜落事故（8月5日）は、8月16日、事故原因が究明されないまま、「機体に問題はなかった」と飛行訓練を再開しました。右の写真は墜落したヘリが所属する米空軍嘉手納基地の救難中隊などが韓国のオサン米空軍基地で実施した戦闘技術訓練の様子で、山林の樹木に囲まれた現場から米兵をロープでつり上げています。



「墜落したヘリは単なる救難ヘリではない。戦闘地域に武装兵を送り込み、奇襲作戦で敵を殲滅（せんめつ）させて戦場に取り残された米兵を救出（回収）する事実上の戦闘捜索救難ヘリだ。」と、沖縄の平和活動家は語ります。事故は訓練中に起きました。「何の訓練していたのか」を明らかにすべきです。米空軍はCV22オスプレイをHH60ヘリの後継機とする構想も検討しています。

自衛隊の救難団が横田基地の航空総隊司令部の隷下になりました。いま、救難訓練だ、災害訓練だ、と日米共同訓練が行われていますが、軍事訓練であることを見逃してはなりません。

ヨコスカ・フレンドシップデー 子どもに銃を持たせ 殺人訓練も

8月3日のことですが、米海軍横須賀基地で、「ヨコスカ・フレンドシップデー」が開催され、基地の一般開放が行われました。

その際、一般見学者や子どもに銃を持たせ、兵士の武闘訓練も公開されました。米軍の訓練では、銃剣をかざしながら兵士が「Kill！ Kill！ Kill！ Kill！」（殺せ！殺せ！殺せ！）と叫び、「Ready Execute！」（処刑、用意！）と言いながら相手の首を絞めるなど、明らかに殺人のための訓練を市民や未成年者の前で公然と行いました。

神奈川県平和委員会など5団体は、銃を持たせ殺人訓練を公開するなど抗議を込めて横須賀市教育長あてに公開質問状を届けました。米軍にも、抗議文を送りました。（写真：神奈川県平和委員会提供）

